

国語復習プリント古文②（助動詞の復習）

① 解答欄の助動詞の活用表を完成させなさい。

② 傍線部の助動詞の意味を書きなさい。

① さらにこそ信ぜられね。

② 無下のことをも仰せらるるものかな。

③ 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ驚かれぬる

④ 夜ふけぬさきに帰らせおはしませ。

⑤ 今は出家せしめて、聖の道を習はしめむ。

⑥ 黒き雲、にはかに出できぬ。風吹きぬべし。

⑦ 思はむ子を法師になしたらむこそ、心苦しけれ。

⑧ 親王、大殿ごもらで、明かし給ひてけり。

⑨ 勅使、藏人の侍従宗基、目録を持ちて参れり。

⑩ 怪しがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。

⑪ わが待ちし秋萩咲きぬ

⑫ 御格子あげさせて、御簾を高くあげたれば、わらはせたまふ。

⑬ 大井川の水をまかせられんとて、大井の土民に仰せて、水車を造らせられけり。

⑭ はるかに思ひやらるることは、ただ、この月に向かひてのみこそあらめ。

⑮ 露をなどあだなるものと思ひけむわが身も草に置かぬばかりを

⑯ 袖ひちてむすびし水のこほれるを春たつけふの風やとくらむ

⑰ ふるさとなりにし平城の都にも色は変はらず花は咲きけり

⑱ つひに本意のごとくあひにけり。

⑲ あはただしかりし事ども宣ひ出だして、泣きぬ笑ひぬぞし給ひける。

⑳ 埋みつる木の下に向きて、数珠おし摩り、惟継の中納言は風月の才に富める人なり。

㉑ この獅子の立ちやう、いとめづらし。深き故あらん。

㉒ 盗人なりければ国の守に搦められにけり。

㉓ 大王はいま天下に君たれども、西に衛・秦の愁へあり。南に強楚の敵あり。

㉔ 世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし少納言の乳母とぞ人言ふめるは、この子の後見なるべし。

㉕ 「必ずこの度の御遊びには参るべし。」

㉖ かたみこそ今はあたなれこれなくは忘るる時もあらましものを

㉗ わが旅は久しくあらしこのあが着る妹がころもの垢づく見れば

③⑩ 「いと心苦しくもの思ふなるは、まことか。」と仰せたまふ。

③① 皮衣を見ていはく「うるはしき皮なめり。」

③② はかなくうち語らはん友なりとも、よくその人を選ぶべし。

③③ 変化の物にて侍りけむ身とも知らず、親とこそ思ひたてまつれ。

③④ 必ず果たしとげんと思はん事は、……とかくのもよひなく、足を踏み止むまじきなり。

③⑤ 楊貴妃ごときはあまり時めきすぎて悲しきことあり。

③⑥ 物語してゐたるほどに、人々あまた声して来なり。

③⑦ 尼にやなりなまし。

③⑧ 敦盛器量たるによつて持たれたるとかや。

③⑨ 人わろきなるべし。

④① 人の門たたき走りありきて、何事にかはらむ、賢げなる人も人の上をのみはかりて、おのれをば知らざるなり。

④② 風激しく吹きて、静かならざりし夜、

④③ おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。

④④ また、治承四年水無月のころ、にはかに都うつり侍りき。

その他		体言	体言 連体形	終止形						連用形						未然形												接続
ごとし	り	たり	なり	なり	まじ	べし	めり	らし	らむ	たし	けむ へけん	たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず へんず	む へん	ず	しむ	さす	す	らる	る	基本形
																												未然形
																												連用形
																												終止形
																												連体形
																												已然形
																												命令形
形容詞型	ラ変型	形容動詞型	形容動詞型	ラ変型	形容詞型	形容詞型	ラ変型	無変化型	四段型	形容詞型	四段型	ラ変型	ナ変型	下二段型	ラ変型	特殊型	形容詞型	無変化型	特殊型	サ変型	四段型	特殊型	下二段型	下二段型	下二段型	下二段型	下二段型	活用型

その他		体言	体言 連体形	終止形						連用形						未然形												接続
いとし	り	たり	なり	なり	まじ	べし	めり	らし	らむ	たし	けむ 〈けん〉	たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず 〈んず〉	む 〈ん〉	ず	しむ	さす	す	らる	る	基本形
いとく	ら	たら	なら	○	まじから 〈まじく〉	べから 〈べく〉	○	○	○	たから 〈たく〉	○	たら	な	て	〈けら〉	〈せ〉	まほしから まほしく	○	ましか 〈ませ〉	○	○	ざら 〈ず〉	しめ	させ	せ	られ	れ	未然形
いとく	り	と たり	に なり	〈なり〉	まじかり まじく	べかり べく	〈めり〉	○	○	たかり たく	○	たり	に	て	○	○	まほしかり まほしく	○	○	○	○	ざり ず	しめ	させ	せ	られ	れ	連用形
いとし	り	たり	なり	なり	まじ	べし	めり	らし	〈らむ〉 らむ	たし	〈けん〉 けむ	たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	〈んず〉 むず	む 〈ん〉	ず	しむ	さす	す	らる	る	終止形
いとき	る	たる	なる	なる	まじかる まじき	べかる べき	める	らし	〈らむ〉 らむ	たき たかる	〈けん〉 けむ	たる	ぬる	つる	ける	し	まほしき まほしかる	じ	まし	〈んずる〉 むずる	む 〈ん〉	ざる ぬ	しむる	さする	する	らるる	るる	連体形
○	れ	たれ	なれ	なれ	まじけれ	べけれ	めれ	らし	らめ	たけれ	けめ	たれ	ぬれ	つれ	けれ	しか	まほしけれ	じ	ましか	〈んずれ〉 むずれ	め	ざれ ね	しむれ	さすれ	すれ	らるれ	るれ	已然形
○	〈れ〉	たれ	〈なれ〉	○	○	○	○	○	○	○	○	〈たれ〉	ね	てよ	○	○	○	○	○	○	○	ざれ	しめよ	させよ	せよ	られよ	れよ	命令形
形容詞型	ラ変型	形容動詞型	形容動詞型	ラ変型	形容詞型	形容詞型	ラ変型	無変化型	四段型	形容詞型	四段型	ラ変型	ナ変型	下二段型	ラ変型	特殊型	形容詞型	無変化型	特殊型	サ変型	四段型	特殊型	下二段型	下二段型	下二段型	下二段型	下二段型	活用の型

[illegible]